

学位論文内容の要旨

学位申請者	和田 薫子 【比較社会文化学専攻 平成25年度生】	要 旨
論文題目	カナダ在住日本人女性の就労場面における葛藤の異文化受容態度とキャリア形成意識に及ぼす影響	<p>本研究の目的はカナダ在住日本人女性の就労場面における葛藤、異文化受容態度およびキャリア形成意識の関連性を質的および量的に検討したものである。第1章から第2章ではカナダで就労する日本人女性を取り巻く環境や問題点について論じ、就労場面における葛藤、異文化受容態度、キャリア形成意識の理論および先行研究を概観した。第3章では就労場面における葛藤をインタビュー調査で質的に検討し、対人行動における葛藤や不満足な職務内容等を示した。第4章では質問紙調査を実施し就労場面における葛藤と異文化受容態度の関連を検討した結果、「不満足な職務内容」、「違和感のある同僚の態度」、「疎外感」、「ハラスメント」、「組織における円滑な人間関係不足」、「言語能力不足による意思不疎通」の6因子が、異文化受容態度は「同化」、「日本文化分離」、「統合」、「第三文化分離」、「周辺化」の5因子が抽出された。異文化受容態度への影響要因について重回帰分析を行った結果、「同化」には日常英語レベルが正の影響、カナダ職務期間が負の影響、「日本文化分離」には「ハラスメント」と日常英語レベルが負の影響、日本人社員割合が正の影響、「統合」には日常英語レベルが正の影響、カナダ滞在期間が負の有意傾向、「第三文化分離」には「疎外感」の正の有意傾向、「周辺化」には「違和感のある同僚の態度」が負の影響、「言語能力不足による意思不疎通」が正の影響を与えていた。第5章では就労場面における葛藤および異文化受容態度と属性との関連性を検討した結果、葛藤には雇用形態、カナダ人社員割合、日常英語レベルが、異文化受容態度では、企業系統、日常英語レベル、年齢に有意差がみられた。第6章では就労場面における葛藤とキャリア形成意識の関連を検討した結果、キャリア形成意識は「継続勤務希望」、「日本文化普及希望」、「離職希望」、「専門性活用希望」、「転職希望」の5因子が抽出され、重回帰分析結果からは「継続勤務希望」には「不満足な職務内容」が負の影響、年齢が正の影響、「日本文化普及希望」には「疎外感」が正の影響、「言語能力不足による意思不疎通」、勤務時間、カナダ人社員割合が負の影響、「転職希望」には「不満足な職務内容」が正の影響を与えていた。第7章の総合的考察では、本研究で得られた知見を整理し、Berryの理論モデルを修正した第三文化分離の異文化受容態度をとる背景が示唆された。また、主観的な日常英語レベルの異文化受容態度への影響、「日本文化普及希望」のキャリア形成意識をとる背景として、カナダの就労場面において居場所を模索している状況が挙げられた。</p>
審査委員	(主査) 教授 加賀美 常美代	
	教授 伊藤 美重子	
	教授 浜野 隆	
	准教授 荒木 美奈子	
	特任講師 小松 翠	